防災特集

「災害の記憶」に学ぶ

関東・東北豪雨からまもなく７年、令和元年東日本台風からまもなく３年。今改めて「災害の記憶」から学ぶ、災害への備えが大切になっています。

問合先：危機管理課 ☎（21）2551

関東・東北豪雨の際のとちぎ蔵の街大通り。
通り全体を濁流が覆いつくしています。
平成27年９月10日撮影の動画より。

過去の災害の経験を基に新たな災害への備えを

「今年87歳になる父からは『子どもの頃は何回か大水が出て、床上浸水で何日も水が引かなかった経験がある』という話を聞いたことがありました。水が出て家の中に入ってくるというのは昔の話かと思っていましたが、現在でもそういうことが起こりうるのだと実感しました。」これは、令和元年東日本台風を市内で経験した方の言葉です。

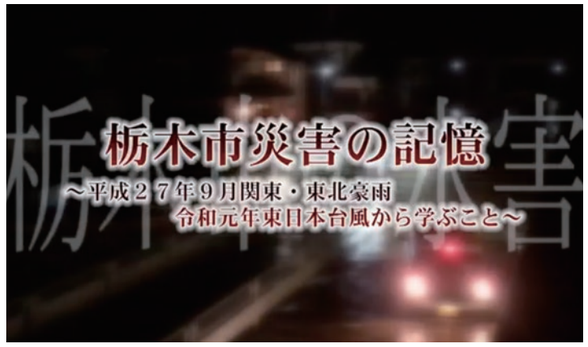
近年、大雨や地震など、全国的に多くの災害が発生しています。栃木市でも、平成27年関東・東北豪雨、令和元年東日本台風と、立て続けに大きな被害が発生しました。台風の被害を受けた市民の皆さんに無作為抽出でアンケートを実施したところ、「警戒レベル（避難所情報）の意味を知らなかった。」「避難したのは自宅が浸水・土砂流入してからだった。」などの課題が挙げられました。

今回の特集では、市で作成した動画「栃木市災害の記憶」を踏まえ、災害の経験と、日頃から備えておくべきことについて、お伝えします。

記録動画「栃木市災害の記憶」をご覧ください

今回の特集では、市で昨年作成した動画「栃木市災害の記憶」の一部を抜粋し、ご紹介しています。この動画は、市の地域会議の一つ「栃木中央地域会議」の提案により実現したもので、関東・東北豪雨、東日本台風の記録映像や体験談などが収録されています。

この動画は「栃木市公式Youtubeチャンネル」でご覧いただけます。



危機意識を持つことが大切

夜９時過ぎ頃、家の外を見たら、もう滝のように水が流れて来ていて、これはもう越水ではなく決壊したんだな、とすぐわかりました。ご近所もあっという間に床上浸水。ブロック塀が倒れたり、物置が流されていったり、本当に恐ろしい状況でした。

私も近所の皆さんも、この永野川の土手が決壊することは夢にも思わなかった。これからの時代、いつどこでどういう災害が起こるかわからない。他人事と思わずに、危機意識を持つことが重要だということを、思い知らされました。

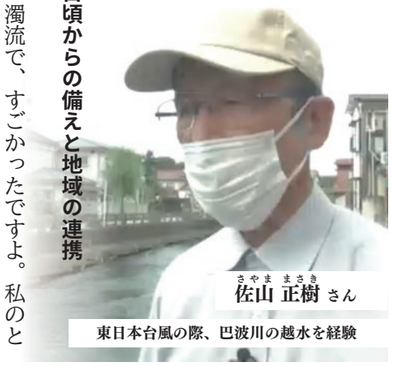
寺内（てらうち） 雄嗣（ゆうじ） さん
東日本台風の際、永野川の決壊を経験

日頃からの備えと地域の連携

濁流で、すごかったですよ。私のところは水が溜まりに溜まって、腰のところまで来ました。暗くて見えないから、側溝があったら落ちてしまう。「もし洪水になったら、自分はどういう行動をする」ということを具体的に決めていなかったことが悔やまれます。

自宅が災害にあったらどうなるのか事前に考え備えておくこと、いざという時に助け合えるような隣近所（となりきんじょ）との関係が大切だと思いました。

地域の人と行政とみんなで連携して、安全な栃木のまちというのを、なんとか確立できたらと思います。



佐山（さやま） 正樹（まさき） さん
東日本台風の際、巴波川の越水を経験

情報収集

複数の手段で情報を集める

災害発生の際は、情報収集が大切。ここに挙げた手段なども参考に、複数の手段を事前に確認しておきましょう。

ネット・スマホ・アプリで

- 栃木市公式ホームページ
- 栃木市公式ツイッター
- cc9 生活安全情報メール
- Yahoo! 防災速報アプリ
- NHK ニュース防災アプリ
- 気象庁 キキクル
- 停電情報アプリ TEPCO 速報（iOS / Android）
- とちぎリアルタイム 雨量河川水位観測情報
- 危機管理型水位情報（「川の水位情報」サイト）

ラジオ・テレビで

防災ラジオ

通常のラジオ（AM・FM）のほか、市からの災害時緊急放送を受信すると自動起動して最大音量で伝えます。

FMくらら８５７（栃木市のコミュニティラジオ）

FM８５．７Mhz（市販のラジオでも受信できます）

NHK総合テレビ（データ放送）

リモコンのｄボタンを押して、避難情報や避難所、河川の水位などを確認。